

シドニー発着のセレブリティ・エッジ乗船記(その4)

2025.11.18 池田良穂

今回の乗船したセレブリティ・クルーズの「セレブリティ・エッジ」のクルーズについて、筆者なりの分析・印象をご披露したいと思います。

同船は、2018年に竣工したセレブリティの新鋭シリーズの第1船です。大きさは13万総トンと、超大型船が増えた今となってはやや小ぶりの船ですが、ロイヤル・カリビアン・グループのプレミアム・クラスのマーケットを担う新しい切り札として計画された船です。同グループは、「イノベーションを遺伝子とする」と経営者が言うように、常に新しいクルーズのあり方にチャレンジしています。この「エッジ」シリーズではどうなのでしょうか。この前のシリーズ船ソルステイス・クラスではモダーン・ラグジュアリを歌っていました。その違いにも大変興味がありました。



最近の大型船では、船内のクラス分けの復活が広がっていますが、「エッジ」シリーズでも同様の傾向がみられます。それが16階の船首側に専用区画のあるレトリート・クラス、そして専用レストランの使用が可能なアクア・クラスがあることです。筆者が予約したアクア・クラスでは、乗船時にシャンパン1本、そして毎日ミネラルウォーターが届けられました。

キャビンでは、同船にもベランダ付きが増えていますが、大きな違いは普通のベランダではなく、船内にとりこんだインサイドベランダとなっているキャビンがほとんどだということです。実質的にはベランダ部分まで部屋として利用できます。このタイプのキャビンで

は大きな窓が外側にあり、電動で上半分の窓が上下にスライドして開けることができます。また窓の内側には、同じく電動のシャッターがあって遮光ができるようになっています。寒い季節のクルーズでもベランダが使って、部屋がずいぶん広く使えるようになりました。最初にシドニーで乗船したときには、窓が開くことを知らず、せっかく反航船の撮影のできる左舷側のキャビンを押されたのに、汚れた窓ガラスにがっかりしたのですが、担当のキャビンスチュワーデスが、窓が開くことを教えてくれて感動しました。おかげさまでシドニーやホバートでは、キャビンからのシップウォッチングが堪能できました。



外から見たインサイドベランダのキャビン。窓の上半分が電動で開閉ができます。ところどころの窓の上半分が開いているのがわかります。



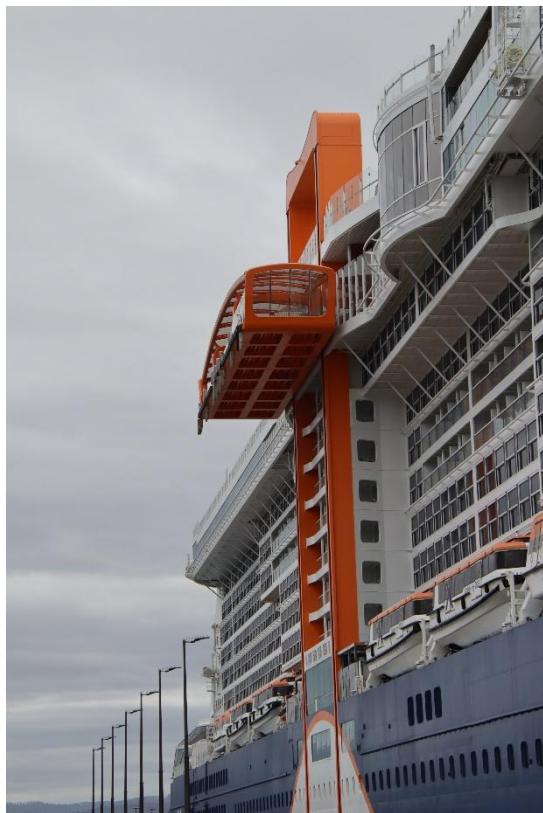
インサイドベランダ付きのキャビンの内部からの写真です。ベランダは室内なので部屋が広くなり、窓を開ければベランダとして使えます。



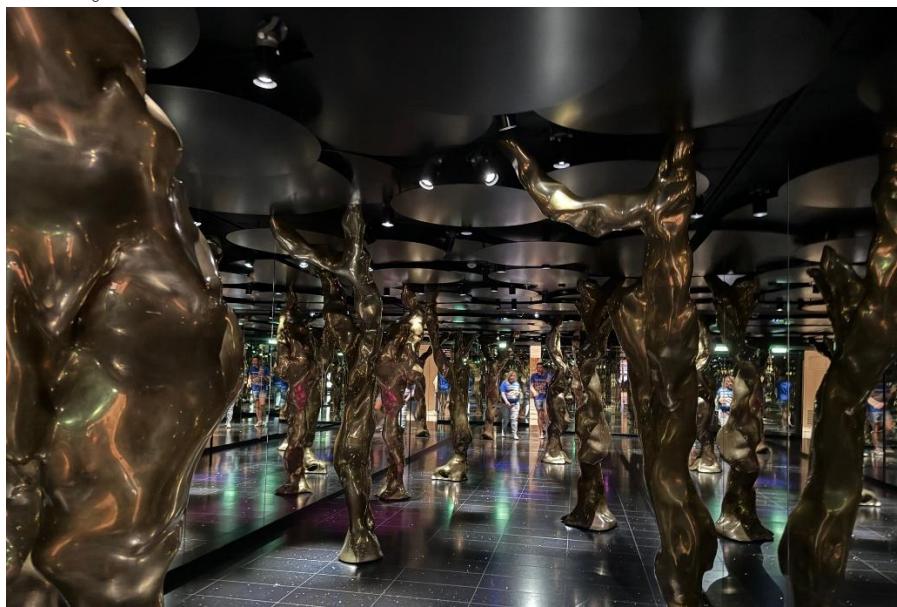
上半分の窓を開けた時の写真です。

この船では全船客が使える指定席制の巨大なメインダイニング・ルームがなくなりました。大きなテーブルを囲む夕食は、定期客船時代の社交を大事にした食事を彷彿とさせるサービスでしたが、夫婦、家族、グループでのテーブルを好む時代に合わせて、希望しなければ相席はさせない傾向にあり、2人テーブル、4人テーブルが同船でも増えています。4つのメインダイニング・ルームは、それぞれ地中海、フレンチ、イタリアン等のテーマ制のあるものとなっており、上等級のキャビンのアクア・クラス、レトリート・クラスでは専用のダイニング・ルームが設けられています。今回はアクア・クラスの40%引きという安いオファーがRCCLグループからのダイレクトメールであったので予約しましたが、一般客用のダイニング・ルームよりサービスも料理の質も高かったように思います。ちなみに1泊あたりのクルーズ料金は1人あたり約3万円でした。正規料金は1泊あたり約5万円でした。

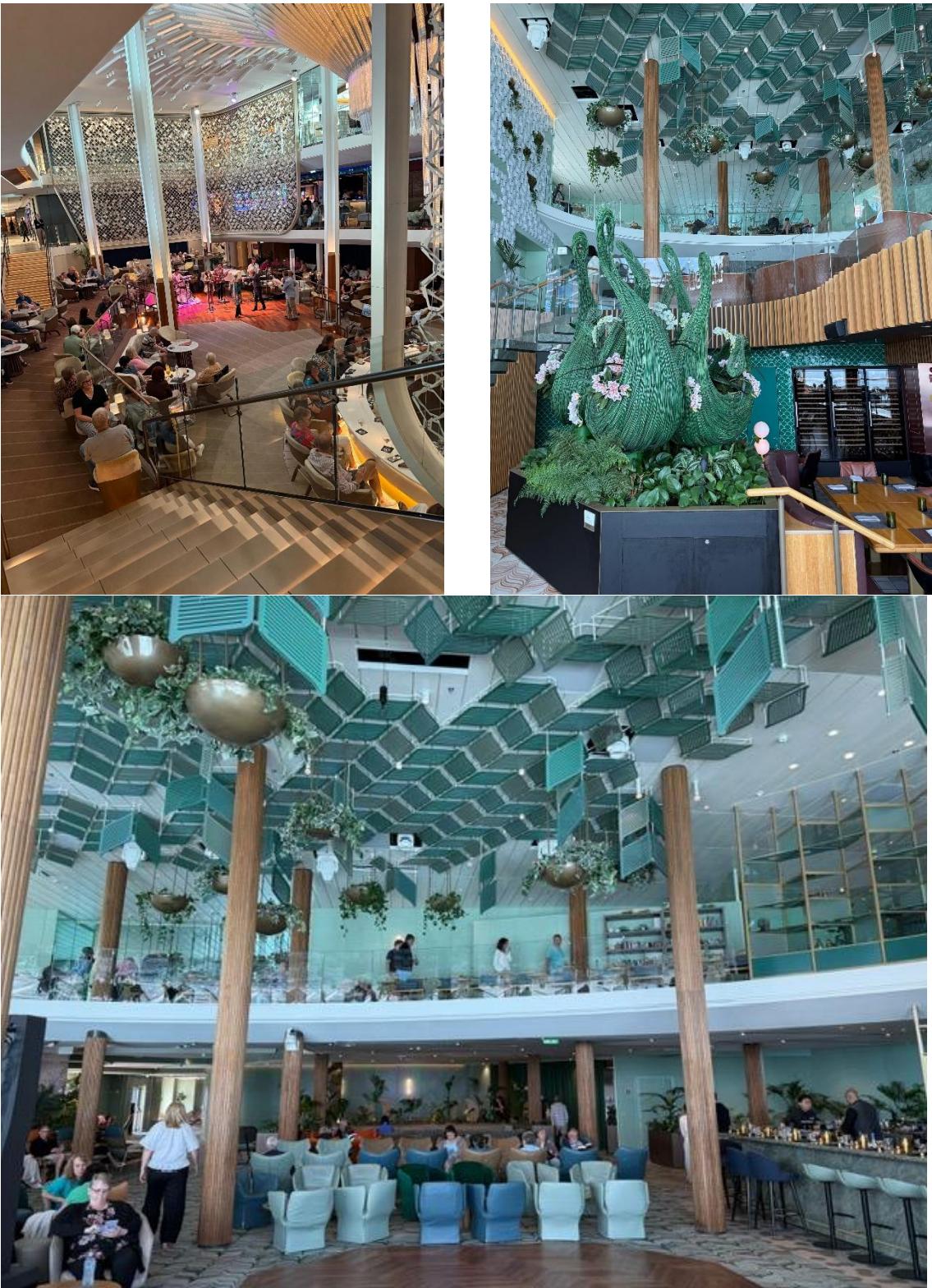
同船には、外からもよく目立つオレンジ色のマジック・カーペットという、上下に稼働する公室がありますが、今航海中は一度も稼働しませんでした。5階にあるロー・オン・ファイブというレストランのオープンエアーのベランダ席という機能をもっており、16階まで上り下がりができるようです。たぶん寒かったのでクローズしていたのでしょう。こうしたエレベーター型の公室は、RCIのオアシスクラスで登場し、同クラスの場合には船内プロムナードに設けられていますが、その船外版といったところでしょうか。



最船尾側の4～5階に設けられた広大な公室「エデン」はなかなかユニークなラウンジです。外側を円形のスロープがあって、そこを登り降りすることができ、いろいろな高さの場所に椅子やテーブルが配置されていて、最上階スペースには小さなライブラリーもありました。船尾方向に開けた大きな窓からは大海原が見渡せ、船の航跡を眺めることもできます。最も下のフロアにはグランドピアノ等が置いてあり、時々に演奏が行われていました。また同ラウンジ内にはカフェやバーもあるので、飲みながらの休息にもぴったりでした。



エデンへの入口は、暗いガラス張りの通路でした。



エデンの内部で、2層吹き抜けになっています。



エデンにある有料レストランです。

シアターは、舞台が比較的小さいためショーの規模は限定的で、あらゆる年代層の乗客が乗る超大型カジュアル船(最近は「コンテンポラリ船」と読んでいるようですが)のショーのようなダイナミックさや多様性はありません。乗客の層が限られたプレミアム船、ラグジュアリ船ならではの特徴と言えます。もちろんプールには最近はやりのスライダーなどもありません。船内では、大人の静かな時間が流れていきました。ただし、ラウンジでのカラオケが始まるとどうるさくなつて筆者はすぐに退出してしまいました。



